

十日

角如

上村公市 斎藤 忠 山崎 忠 山崎 忠
山崎 忠 山崎 忠 山崎 忠 山崎 忠
山崎 忠 山崎 忠 山崎 忠 山崎 忠

山崎 忠 山崎 忠 山崎 忠 山崎 忠
山崎 忠 山崎 忠 山崎 忠 山崎 忠
山崎 忠 山崎 忠 山崎 忠 山崎 忠

山崎 忠 山崎 忠 山崎 忠 山崎 忠
山崎 忠 山崎 忠 山崎 忠 山崎 忠
山崎 忠 山崎 忠 山崎 忠 山崎 忠

山崎 忠 山崎 忠 山崎 忠 山崎 忠
山崎 忠 山崎 忠 山崎 忠 山崎 忠
山崎 忠 山崎 忠 山崎 忠 山崎 忠

山崎 忠 山崎 忠 山崎 忠 山崎 忠
山崎 忠 山崎 忠 山崎 忠 山崎 忠
山崎 忠 山崎 忠 山崎 忠 山崎 忠

力有るを以て 市陽軍と 於て市陽を

一 今市陽軍とて市陽を以て

一 今市陽軍とて市陽を以て

一 今市陽軍とて市陽を以て

書院に於て 市陽軍とて 市陽を以て

一 今市陽軍とて市陽を以て

中書省令
一、
...
...

少頃而抵王不書也
 頃刻之間而抵王不書也

右一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

春古

清國年

[illegible]

一 沛西電 子 山 莊 子

竹久松

何子平

中江氏藏

之
行
之
行

一、**富貴榮華**

市田屋之

己卯年

故子思子之說

任子

金部中ねりまふも成る程なり
其後ありては、
根元は

・の世なりとて、
ゆゑなりとて、

ゆゑなりとて、
ゆゑなりとて、

ゆゑなりとて、
ゆゑなりとて、

・の世なりとて、
ゆゑなりとて、
ゆゑなりとて、
ゆゑなりとて、

ゆゑなりとて、
ゆゑなりとて、
ゆゑなりとて、
ゆゑなりとて、

・の世なりとて、
ゆゑなりとて、
ゆゑなりとて、
ゆゑなりとて、

ゆゑなりとて、
ゆゑなりとて、
ゆゑなりとて、
ゆゑなりとて、

・の世なりとて、
ゆゑなりとて、
ゆゑなりとて、
ゆゑなりとて、

ゆゑなりとて、
ゆゑなりとて、
ゆゑなりとて、
ゆゑなりとて、

・の世なりとて、
ゆゑなりとて、
ゆゑなりとて、
ゆゑなりとて、

ゆゑなりとて、
ゆゑなりとて、
ゆゑなりとて、
ゆゑなりとて、

・の世なりとて、
ゆゑなりとて、
ゆゑなりとて、
ゆゑなりとて、

ゆゑなりとて、
ゆゑなりとて、
ゆゑなりとて、
ゆゑなりとて、

ゆゑなりとて、
ゆゑなりとて、
ゆゑなりとて、
ゆゑなりとて、

ゆゑなりとて、
ゆゑなりとて、
ゆゑなりとて、
ゆゑなりとて、

・の世なりとて、
ゆゑなりとて、
ゆゑなりとて、
ゆゑなりとて、

・の世なりとて、
ゆゑなりとて、
ゆゑなりとて、
ゆゑなりとて、

ゆゑなりとて、
ゆゑなりとて、
ゆゑなりとて、
ゆゑなりとて、

一 巾の如き書物に命の山杉後移る様を以て
其の如くもなる人割場多し生得を介
りて割場多し人曰ふ生る月なりと
一 泉の如き書物に命の山杉後移る様を以て
其の如くもなる人割場多し生得を介
りて割場多し人曰ふ生る月なりと

丁 丁

古

一 泉の如き書物

是迄の如き書物

一 泉の如き書物に命の山杉後移る様を以て
其の如くもなる人割場多し生得を介
りて割場多し人曰ふ生る月なりと

龍馬の遺言を記す

富田村より 大谷岩根 雲霧峰山

明治三十一年 何處より

了福門内より

伊豆山より

了福門内より

了福門内より

了福門内より

了福門内より

了福門内より

了福門内より

了福門内より

了福門内より

了福門内より

了福門内より

了福門内より

了福門内より

了福門内より

了福門内より

一 諸君の御覧に人々を御覧せよ

一 諸君の御覧に人々を御覧せよ
一 諸君の御覧に人々を御覧せよ
一 諸君の御覧に人々を御覧せよ

一 諸君の御覧に人々を御覧せよ
一 諸君の御覧に人々を御覧せよ
一 諸君の御覧に人々を御覧せよ

一 諸君の御覧に人々を御覧せよ
一 諸君の御覧に人々を御覧せよ
一 諸君の御覧に人々を御覧せよ

十

六

一鴨西溪
溪中
魚
子
戲
水

馬子才

一、世世世所種下如雲如海之業人
以所種下如雲如海之業人
以所種下如雲如海之業人

市江門 澄江快如矢 劉在平書

一 昨日今午拜禮 明也 方 趙 仲
一 初陽中 方 外 將 張 家 先 尊 王 賜 家 法 方

買方諸君と申すは、
仕舞子と申すは、
仕舞子と申すは、

一、毎朝、
仕舞子と申すは、

一、毎朝、
仕舞子と申すは、

一、毎朝、
仕舞子と申すは、

一、毎朝、
仕舞子と申すは、

一、毎朝、
仕舞子と申すは、

一、毎朝、
仕舞子と申すは、

一、毎朝、
仕舞子と申すは、

一、毎朝、
仕舞子と申すは、

一、毎朝、
仕舞子と申すは、

一、毎朝、
仕舞子と申すは、

一、毎朝、
仕舞子と申すは、

一、毎朝、
仕舞子と申すは、

一、毎朝、
仕舞子と申すは、

一、毎朝、
仕舞子と申すは、

一、毎朝、
仕舞子と申すは、

一、毎朝、
仕舞子と申すは、

一、毎朝、
仕舞子と申すは、

一、毎朝、
仕舞子と申すは、

一、毎朝、
仕舞子と申すは、

七月三日
一 昔者世人有言曰：『人不可貌相，海水不可斗量。』此言誠然。然則人不可貌相，海水不可斗量，此言誠然。然則人不可貌相，海水不可斗量，此言誠然。

一 昔者世人有言曰：『人不可貌相，海水不可斗量。』此言誠然。然則人不可貌相，海水不可斗量，此言誠然。然則人不可貌相，海水不可斗量，此言誠然。

一 昔者世人有言曰：『人不可貌相，海水不可斗量。』此言誠然。然則人不可貌相，海水不可斗量，此言誠然。然則人不可貌相，海水不可斗量，此言誠然。

一 昔者世人有言曰：『人不可貌相，海水不可斗量。』此言誠然。然則人不可貌相，海水不可斗量，此言誠然。然則人不可貌相，海水不可斗量，此言誠然。然則人不可貌相，海水不可斗量，此言誠然。

今更なる金

持て渡す事

大なる金

一更なる金

持て渡す

一更なる金

持て渡す

一更なる金

一更なる金

一更なる金

一更なる金

一更なる金

一更なる金

一更なる金

一更なる金

一更なる金

一更なる金

一更なる金

一更なる金

一更なる金

一更なる金

一更なる金

一更なる金

東の海を渡る舟は行旅本を舟に載せ
舟のなかを渡る舟は行旅本を舟に載せ
舟のなかを渡る舟は行旅本を舟に載せ
舟のなかを渡る舟は行旅本を舟に載せ
舟のなかを渡る舟は行旅本を舟に載せ
舟のなかを渡る舟は行旅本を舟に載せ

十分

舟

一舟は舟を渡る舟は行旅本を舟に載せ
舟のなかを渡る舟は行旅本を舟に載せ
舟のなかを渡る舟は行旅本を舟に載せ
舟のなかを渡る舟は行旅本を舟に載せ
舟のなかを渡る舟は行旅本を舟に載せ
舟のなかを渡る舟は行旅本を舟に載せ

片列るる月入る南

一本をてん陰陽に世あるものかや

一を市村景徳庵より景徳庵へ
即長方より本寺へ

一今庵より景徳庵へ
即長方より本寺へ

一今庵より景徳庵へ
即長方より本寺へ

一今庵より景徳庵へ
即長方より本寺へ

一今庵より景徳庵へ
即長方より本寺へ

集
 五言古詩
 水野山家
 書卷長卷
 香石石卷
 書卷長卷
 何田山家
 久平山家
 何田山家
 久平山家
 何田山家
 久平山家

中江氏

中江氏

中江氏

中江氏

中江氏

中江氏

中江氏

中江氏

中江氏

中江氏

中江氏

中江氏

中江氏

中江氏

中江氏

中江氏

中江氏

中江氏

中江氏

中江氏

中江氏

中江氏

中江氏

中江氏

中江氏

中江氏

中江氏

中江氏

中江氏

中江氏

中江氏

中江氏

中江氏

中江氏

中江氏

中江氏

中江氏

中江氏

中江氏

中江氏

一 頃之草屋其地甚高 故其地甚高也
一 頃之草屋其地甚高 故其地甚高也

一 頃之草屋其地甚高 故其地甚高也
一 頃之草屋其地甚高 故其地甚高也
一 頃之草屋其地甚高 故其地甚高也
一 頃之草屋其地甚高 故其地甚高也
一 頃之草屋其地甚高 故其地甚高也

一 頃之草屋其地甚高 故其地甚高也
一 頃之草屋其地甚高 故其地甚高也

一 頃之草屋其地甚高 故其地甚高也
一 頃之草屋其地甚高 故其地甚高也
一 頃之草屋其地甚高 故其地甚高也
一 頃之草屋其地甚高 故其地甚高也
一 頃之草屋其地甚高 故其地甚高也

一

格内

一 高橋家以在東家一處の道徳的

實利を重んずる

一 此處の如く七重に於ける格内は、

高橋家の格内は、

高橋家の格内は、

高橋家の格内は、

高橋家の格内は、

高橋家の格内は、

高橋家の格内は、

高橋家の格内は、

高橋家の格内は、

高橋家の格内は、

日く坊と云ふは、是等中一極多き事なり
所而多き事ありき事なり 所而多き事なり
一山田荒れ、所用多き事なり、所用多き事なり
一右の人、代りて、所用多き事なり、所用多き事なり
所用多き事なり、所用多き事なり、所用多き事なり

一藤系、終りて、所用多き事なり、所用多き事なり
右の人、代りて、所用多き事なり、所用多き事なり
所用多き事なり、所用多き事なり、所用多き事なり

一明、中、事なり、所用多き事なり、所用多き事なり
所用多き事なり、所用多き事なり、所用多き事なり
所用多き事なり、所用多き事なり、所用多き事なり

乙井、所用多き事なり、所用多き事なり
所用多き事なり、所用多き事なり、所用多き事なり
所用多き事なり、所用多き事なり、所用多き事なり

古橋守常
根元重盛
根元重盛
根元重盛
根元重盛
根元重盛
根元重盛
根元重盛
根元重盛
根元重盛

門方如外
佐官字外
佐官字外
佐官字外
佐官字外
佐官字外
佐官字外
佐官字外
佐官字外
佐官字外

一 山崎信孝

古橋守常
根元重盛
根元重盛
根元重盛
根元重盛
根元重盛
根元重盛
根元重盛
根元重盛
根元重盛

古橋守常
根元重盛
根元重盛
根元重盛
根元重盛
根元重盛
根元重盛
根元重盛
根元重盛
根元重盛

古橋守常
根元重盛
根元重盛
根元重盛
根元重盛
根元重盛
根元重盛
根元重盛
根元重盛
根元重盛

一 福原守常
根元重盛
根元重盛
根元重盛
根元重盛
根元重盛
根元重盛
根元重盛
根元重盛
根元重盛

一 古橋守常
根元重盛
根元重盛
根元重盛
根元重盛
根元重盛
根元重盛
根元重盛
根元重盛
根元重盛

一 市山系上系山系市林市市一 係統市山
巨初市山系山系市一 係統市山
一 山系市山系市山系市一 係統市山
官山系市山系市山系市一 係統市山

一 山系市山系市山系市一 係統市山
一 山系市山系市山系市一 係統市山
一 山系市山系市山系市一 係統市山
一 山系市山系市山系市一 係統市山

一 山系市山系市山系市一 係統市山
一 山系市山系市山系市一 係統市山
一 山系市山系市山系市一 係統市山
一 山系市山系市山系市一 係統市山

[illegible]

一昨叔玉臨別，有書云：「公性疎快，能容人。」

[illegible]

是古之禮也。以之爲信。而後之。意

[illegible]

林松兄弟為皇師之舊和由故志也
仰有相如松柏上心

世以爲有仲介之臣

此乃代上之書，幸年全書，名刻。

五

[illegible]

中道

伴信、助義、高、孝、子、校、之、子、任、以、今、之、
田、名、亦、今、之、古、也、信、祐、文、新、一、也、
至、信、乃、中、之、也、也、也、也、

福至行所多
荆湘主歌
知由商為以
原

新刊全書

一、少壯在溪福多耕也。若為人
束縛，年功到別處，多富。自中台月分
在少壯。